

第16号

# 人権協だより

平成21年12月22日

発行 内部地区人権教育推進協議会  
(内部地区市民センター内)



人権協発足10周年記念公開啓発講座が

多数の参加を得て盛会のうちに終了

11月14日、内部市民センターにおいて、人権協発足10周年を記念した公開啓発講座を開催しました。この講座には、落語家 桂 ひな太郎さんを迎え、「妾馬（めかうま）」ほか一席を披露していただきました。この「妾馬」は、江戸時代の士農工商と言う身分制度の中で、主人公の八五郎が侍相手に繰り広げる涙と笑いの物語であり、会場は大きな笑いの渦に包まれました。

また、四日市市男女共同参画センター参事・課長 市川 典子氏を助言者に迎え、男女共同参画をテーマにパネルディスカッションを行いました。桂 ひな太郎氏と当人権協会長 木田 富喜二氏にもパネリストとして参加いただき、落語家の社会における師弟の関係や先輩後輩の関係、昔行われていた男女の固定的な役割分担に基づく制度や慣行についての事例などについて紹介があり、参加者を交えて活発な意見交換が行われました。



## 今年度の地区懇談会が各地で開催される

3年間の継続事業として実施している地区懇談会は、10月9日波木南台での開催を皮切りに、内部地区内の6町で順次開催されました。



波木が丘町での懇談会

平日の夜の開催という会場も多くありましたが、各会場ともたくさんの方にご参加いただき、昨年同様、講師に市川清博先生をお招きし、私たちの身近な生活の中で行われている行動を描いた絵を見て、何か気になるところをグループごとに発表し合い、「気づき」の大切さを学びました。

また、ユニバーサルデザイン（年齢や障害の有無にかかわらず最初からできるだけ多くの人々が利用可能であるようにデザインすること）を取り入れた製品やその考え方について学びました。

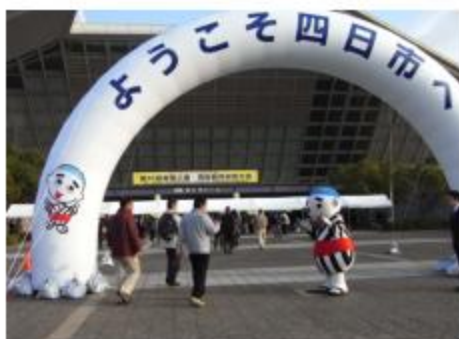
[ 裏面もご一読ください ]

## 四日市ドームを主会場に「第61回全国人権・同和教育研究大会」が開催される。

11月28日から2日間、四日市ドームを主会場に四日市市、桑名市、鈴鹿市において「第61回全国人権・同和教育研究大会」が全国各地から約1万人の関係者が参加して盛大に開催されました。

この大会は、「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」をテーマとし、「今日の経済不況や格差社会が教育の機会均等や子どもたちの進路を奪うものとなっている」と指摘して、「どこで生まれたか、どんな生活環境で育ったかによって子どもたちの自己実現を左右してはならない」とした大会宣言が朗読されました。また特別報告では、伊賀市立柘植小学校教諭の師井 佐知子さんから被差別部落の児童や家族と接した体験をもとにした発表がありました。

その後の課題別分科会では、各地における具体的な実践事例をもとにした真剣な討議が行われ、すべての人々の人権が尊重され平和で豊かな社会を実現するためには、学校や家庭・職場のほか、地域における交流と活動の広がりが大切であり、ひとりでも多くの人に参加してもらうことに意義があるとの報告がありました。



小入道くんもお出迎え



大会会場の様子

## 「内部中学校区人権フォーラム」が開催される

12月11日、内部東小学校において、内部中学校、内部東小学校、内部小学校の児童・生徒、各学校の先生、人権協役員・委員など合わせて約250名が参加して、「内部中学校区人権フォーラム」が開催されました。

まず、反差別・人権研究所みえの今村 孝之先生から興味深い実験を通して、「自分の気持ちや意識を変えることによって、見方や感じ方が違う」ことを学んだあと、中学生から中学校での授業やクラブ活動の様子、勉強への取り組みなどについて話があり、小学校の児童からは中学校生活についてもっと詳しく知りたい事柄について具体的な質問がたくさん出されました。

短い時間ではありましたが、小学生諸君は中学生からの適切なアドバイスにより、来春は安心して中学校に進学出来ると喜んでいました。

